

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200560		
法人名	医療法人 養命会 佐藤医院		
事業所名	グループホーム 養命荘(東ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市福田町福田2374-5番地		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.in/33/index.nhp?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JizvosvoCd=3390200560-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.in/33/index.nhp?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JizvosvoCd=3390200560-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室
訪問調査日	平成24年11月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「良い職場環境は良いサービスを提供する一歩です。優しさを持って心あるサービスの提供を心掛けていきましょう」の事業所理念のもとに、入居者の皆様やご家族が、「養命荘にいてよかった」と思っていたいただけるよう職員一同、日々努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の平均年齢が高い割に皆元気で活発としている様子に思わず何か秘訣があるのかと職員に聞いてしまう程であった。職員のテンションも高く、利用者と共に楽しむという気構えで接している為か室内での笑いが絶えない事業所である。  
母体の医療法人がデイサービスを開設した後で介護度が上がった利用者の家族の声を受けて昔医院を開業していた土地に事業所は開設された。母体が医院である事や職員に看護師が2名いる事等から、利用者の健康に対する家族からは安心を感じるとの声が多い。  
リビングからは田んぼが見渡せ、浴室の大きな窓からは綺麗な庭と目隠しの垣根の奥には近くの山を望む事が出来て開放的である。風呂の湯は入浴毎に入れ替えるので利用者の好みの温度や入浴剤を使用することが出来るのもうれしい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員の名札の裏にいれたり、見えやすい所に掲示し職員全員が理念を実践できるよう努力している。	良い職場環境が良いサービスを提供するという法人理念に加え、事業所独自理念「優しさを持って心あるサービスに努めます」を定め、事務所等に掲示し、各職員の名札の裏にも入れている。利用者はとても元気で、職員と一緒によく笑い、楽しそうにしていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にあつたときにはあいさつをするよう心がけている。	地区の夏祭りに誘われ、行ってみると、専用席が用意され、利用者は喜び、祭りを大いに楽しんだ。今でも付近を散歩すると、その時の思い出話が出る。事業所内の「地域交流室」には夏休みに子供たちが遊びに来た。ゴミ出しは専用業者に変えたため、町内のゴミ当番から外れた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだできていないので今後実践していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をもとにサービス向上に活かしている	ボランティアの紹介。 今の現状や取り組み等の報告を行いそこでの意見は今後の活動に取り入れていく。	運営推進会議には地域の民生委員、町内会長、他事業所の職員、地域包括支援センターの職員等が参加するか、平日昼間のため、家族はほとんど来ない。「近所にできた公民館を避難場所にしたかどうか」との提案され、避難訓練時に、実際に利用者と共にそこまで歩いて避難した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所運営でわからないことがあれば適宜相談し、アドバイスを受けている。	市へは手続き等で出向いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議に参加してくれる以外に、空き室の問い合わせを受けたり、センター管轄の利用者情報を交換している。医療・介護事業者の横のつながりを形成する試みの「水島地域支援ネットワーク」にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、身体拘束はしないということを日々職員と話し合っている。また、日中は玄関に鍵をかけず自由に入出入りできる環境にしている。	身体拘束は見受けられない。2012年4月に「身体拘束排除マニュアル」を策定した。玄関は施錠されていないが、開けると大きなチャイムが鳴る。外に出ようとする人がいれば、抑制せず、職員が付き添う。一方で言葉の拘束への対応はこれからで、調査時に「ちょっと待って」等を何度か耳にした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、研修会等の参加を予定している。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間でも研修を行い理解を深めたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で説明を行い納得いただいた上でサービスを利用していただいている。 本人、ご家族の希望、要望を聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口は作っているが意見や苦情はほとんど寄せられていない。	家族には訪問時に様子の報告をするとともに、希望要望があれば聞き入れるようにしている。実現が難しい事は状況説明をして理解してもらうので、大きなトラブルに発展したことは無い。意見箱は設置されていたが、用紙やペンの用意が無かった。	家族が意見を表明し易くする為、口頭に加え様々な手段を用いられる様な配慮を期待したい。また意見要望に繋げる為に普段の様子を家族により知ってもらう手段として、請求書送付時の写真の同封や、事業所報の発行等の検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜、全体ミーティングやユニットミーティングを行ない職員の意見が反映できるようにしている。 また申し送りノートを活用している。	管理者は職員から任用された事もあり、職員は管理者に対して意見は言い易いと感じている。実際にイベントや壁面装飾、利用者の様子に合わせた介助方法の提案等が採用されている。ユニットを超えて利用者や職員が行き来する事もあり、事業所全体で職員がまとまっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には毎日管理者が日々の業務についてや、入居者の様子、職員の勤務状況を報告し理解を得ている。また、定期的に事業所へ訪問し職員や入居者の様子を見ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者からの報告や事業所へ訪問した際の状況を見て、適宜管理者へアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所と連絡を取り合い情報交換を行ったり、お互いの事業所に訪問し見学をしている。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用するにあたって何がしたいのか、何を求めていくのかを本人、家族の思いや願いを聞き安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の縁を断ち切らないように、出来るだけ面会に来ていただけるようお願いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めに知り得た情報、意見を基に本人、家族の望むサービスは何かどんな支援が必要かを考えて作成する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いろいろな役割を利用者に担ってもらったり、家庭的な雰囲気、環境を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の状態を伝えようすればいいのかななどの助言をもらっています。定期通院など、家族の方をお願いしたりし協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒に外出し自宅に帰ったり、お墓参りに行かれる方もおられる。	来訪した家族の帰り際に「とても喜んでいた」と伝えたり、電話で病状報告をした際をお願いして家族の来訪に繋がる様に努力している。家族と外出したり墓参りはかなり頻回にある。外泊する利用者もいる。利用者との会話が続かない事が原因なのか友人、知人の来訪は最近減少傾向にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流の見守り 利用者同士の関係を把握し座る場所、落ち着く場所となるように配慮する。 洗濯物をたたんだり掃除など同じ役割を持ってもらう。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合でも面会に行き関係を大切にしている。 退去後の支援をする。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族への連絡、相談、協力依頼 1対1の対応	起床時間や朝食、入浴などは本人のペースに合わせている。朝の雰囲気や一日の個人の流れを決めていこうと試みている。並行して利用者との個別の声掛けを重視し、挨拶から始めて話をする中で一日をどう過ごしたいかを感じ取り、叶える様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から今までの生活歴を聞くなどして情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の1日の生活を記録に残す。 バイタル、食事量、排泄、排便などのチェックをする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在は計画作成担当者や管理者と本人、家族とでのみプラン作成をしていたが、今後は職員間でもより充実した内容になるよう話し合っていきたい。	家族の意見や希望を職員が聞き取ったメモをケアマネに渡し、介護計画に反映する様にしている。計画の原案を会議で発表し、職員から意見を聞き内容を磨いてもいる。ただ関係する記録に具体性が乏しかったり主語が欠落し、計画との結びつきが理解し難く感じられるものが散見された。	介護計画に関係する記録に日付が無かったり、記述が途中で切れているものを見受けた。また職員の介護計画に対する認識が薄く、経過記録に計画に即した内容が乏しく、計画立案の際の資料になり難く感じた。そうした点の改善を期待したい
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の情報はケース記録に記入し、情報や思いを共有し実践や見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望を聞きできる範囲で対応する。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に美容師さんが散髪に来て下さる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度主治医の診察や看護師による健康チェックをしている。それ以外にも日々なにか変化があれば主治医に相談し早期対応に心がけている。	かかりつけ医は法人母体の佐藤医院で、隣接クリニックが週一度開設され、利用者はそこで受診している。緊急時は医師に報告をして指示を受けられる。訪問看護師も来訪する他、事業所にも看護師は管理者も含めて二名在籍している。そうした体制に家族も安心している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中に看護師がいる。訪問看護師に利用者の状態等の報告を行い異常の早期発見できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き家族や病院関係者と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や入院等し体調に変化があった際にはご家族に説明しその後の対応について、主治医や代表者も含め説明し理解を得ている。	事業所として看取りはしない方針で、最後は病院搬送することになっている。現状では説明書や同意書などは特に用意はしていないが、変化があった場合には退去(病院送致)になる旨は契約時に説明している。	利用者に変化が生じた際の退去について、言った言わないのトラブルを回避する為に終末期について医師の指示に従う旨を記した文書の用意を期待したい。その上で文書を使用した説明と、説明を受けた旨の同意書の受け取りも合わせて期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間の緊急対応についてのマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力を得ながら消防訓練を行なっている。消火器や避難経路の確保などの点検も定期的に行っている。	火災発生時のマニュアルは更新されており、職員の消火器の所在についての認識はしっかりしていた。ただし消防署への通報装置の認識は甘かった。消防署の指導を受けていたというが失念していたようだ。また操作方法についての説明書も理解しにくかった。	

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で職員は私服で対応している。声掛けについてその方の尊厳を失わないような声掛けを行うように心がけている。	利用者の尊厳を損ねないよう、管理者は職員が利用者と信頼関係を築く前にお父さん、お母さん等の砕けた呼び方をしないように注意している。また上から目線にならない事や目を合わせて話す等呼び掛けている。しかし離れた所から大声でトイレ誘導の声掛けする声を幾度か耳にした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々かわる中で本人が自分の思いが表わせるような声かけを行ったり、なにをするに対しても「する」「しない」の気持ちを尊重し無理強いをしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活を送ってもらっており、職員側の都合でそのペースを崩すことはしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人に選んでもらっているがその季節に合った身だしなみをしてもらえるように声掛けさせてもらうことがある。自分で化粧される人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方に頂いた新鮮な野菜を使って料理を作ったり、食べる楽しみにつなげている。その人に合った食事形態にしている。	椅子やテーブルに幾つかのバリエーションがあり、体に合わせて着席出来る。ただし相性など人間関係で多少ずれる事がある。献立は利用者の病気等を加味し、事業所にある食材から決めている。誕生日は鮎等の利用者の好物を取り入れている。調理は利用者が包丁を握る事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個別に確認、チェック表に記入している。食事が進まない人に対しては、声掛けや介助だけでなく、形、形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い職員が見守り、できない方については介助を行っている。訪問歯科診療を受け指導、ケアを受けている。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し声掛け、トイレ誘導を行っている。 個々の排泄パターンを職員が把握、情報交換できるようにする。	トイレはユニット毎に4箇所あり充実している。リハビリの方は1名、後はリハビリにパッドやおしめを使用している。排泄パターンを利用して時間を見て声掛けする事で、失敗を減らす事は出来ているが、介護度の上昇と共にリハビリやパッドのごみ量は増えつつある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分摂取を行い、食事面の工夫もしながらできるだけ自然に排便できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を聞いて湯の温度を変えたり入浴剤を使用したりして雰囲気を変えながら入浴が楽しみになるように支援している。	風呂からは庭と目隠しの垣根を越えて近くの山を借景できる開放的な設計になっている。入浴する日は予め決めてあるが、順番は臨機応変である。入浴回数はユニットでまちまちでケースによっては毎日入る人もいる。使用毎に湯を入れ替えるので希望の温度や入浴剤を使用出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝に向けてリラックスできるように工夫をしている。 家族や医師と相談をして眠剤の調整をしている方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情報を整理している。 個別の薬ケースで薬を管理している。 必ず服薬確認の際には名前、日付の確認を一緒にし服薬確認したスタッフの名前を記入する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、調理、裁縫、買い物等の支援をしたり、本人の思いに沿った外出の計画を立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の付添、外出(買い物、図書館)の支援を行っている。 家族に協力してもらいながら外食、外出の機会を作ってもらっている。	利用者の社会との繋がりや買い物で保つために、利用者と一緒に買い物に出掛ける日を週3日設けている。気候が良ければ近所の神社等に毎日の様に外出している。元気な利用者4、5人が庭で畑仕事をし、残りの利用者はギャラリーとして外で外気を浴びてもいる。庭でのランチも実施した。	

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として事業所として管理し、一緒に買い物に行くことがある。 出納帳をつけて家族に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや手紙のやり取りは自由にされ支援を行っている。 電話も要望があれば電話をかけることもある。 年賀状を大切な人に出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間の交流が盛んで玄関には季節の花を生けてもらったり、飾り物等をどこに飾るかを一緒に決めたりしている。	室内装飾は法人代表の方針で最低限に止めており、落ち着いた雰囲気になっている。清掃は毎日9時から掃除機、モップを使って実施している。併せて洗面所やトイレの清掃も行っている。歩いていて障害になるような物や掴んで危ない物は置かれていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたりし、利用者同士が思い思いに落ち着いて過ごせ、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具、なじみのある思い出の品々を持ってきてもらい家庭的な雰囲気になるように工夫している。	カーテン、エアコン、照明が標準で設置されている。ベッドは利用者側が用意しているが、殆どがレンタルで導入している。レイアウトは本人の意思を尊重し、特に希望が無ければ事業所が利用者の特性に合わせて決定している。使い慣れたタンス、額など馴染みの品が置かれた部屋が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内、居室内の整理整頓にこころがけ安全に生活できるように心がけている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200560		
法人名	医療法人 養命会 佐藤医院		
事業所名	グループホーム 養命荘(西ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市福田町福田2374-5番地		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200560&amp;SCD=320&amp;PCD=33">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200560&amp;SCD=320&amp;PCD=33</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室
訪問調査日	平成24年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で家族や親しい人たちと一緒にその人らしい人生を送れるよう理念と地域密着ということを活かした取り組みを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶をする。 ゴミ当番・地域行事への参加・高校生のボランティアの受け入れなどで交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだできていないので今後実践していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ボランティアの紹介。 今の現状や取り組み等の報告を行いそこでの意見は今後の活動に取り入れていく。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居待機者の状況等を月に1回、市に報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に日中は玄関にカギはかけない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	まだ勉強会はあまりできていないが研修会等の参加を予定している。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その制度を活用されている利用者はおられない。制度に対して理解不足の職員もいるので勉強会等の実施もしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で説明を行い納得いただいた上でサービスを利用いただいている。本人、ご家族の希望、要望を聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口は作っているが意見や苦情はほとんど寄せられていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜、全体ミーティングやユニットミーティングを行ない職員の意見が反映できるようにしている。また申し送りノートを活用している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には毎日管理者が日々の業務についてや、入居者の様子、職員の勤務状況を報告し理解を得ている。また、定期的に事業所へ訪問し職員や入居者の様子を見ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修の参加や、他事業所への研修を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学、研修を受け入れる。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用するにあたって何がしたいのか、何を求めていくのかを本人、家族の思いや願いを聞き安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の縁を断ち切らないように、出来るだけ面会に来ていただけるようお願いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めに知り得た情報、意見を基に本人、家族の望むサービスは何かどんな支援が必要かを考えて作成する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いろいろな役割を利用者に担ってもらったり、家庭的な雰囲気、環境を大切にしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の状態を伝えようすればいいのかなどの助言をもらっています。 定期通院など、家族の方をお願いしたりし協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒に外出し自宅に帰ったり、お墓参りに行かれる方もおられる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流の見守り 利用者同士の関係を把握し座る場所、落ち着く場所となるように配慮する。 洗濯物をたたんだり掃除など同じ役割を持ってもらう。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合でも面会に行き関係を大切にしている。 退去後の支援をする。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族への連絡、相談、協力依頼 1対1の対応		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から今までの生活歴を聞くなどして情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の1日の生活を記録に残す。 バイタル、食事量、排泄、排便などのチェックをする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在は計画作成担当者や管理者と本人、家族とでのみプラン作成をしていたが、今後は職員間でより充実した内容になるよう話し合っていきたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の情報はケース記録に記入し、情報や思いを共有し実践や見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望を聞きできる範囲で対応する。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方が畑をして下さる。 定期的に美容師さんが散髪に来て下さる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1週間に1度、主治医の往診を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中に看護師がいる。 訪問看護師に利用者の状態等の報告を行い異常の早期発見できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き家族や病院関係者と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や入院等し体調に変化があった際にはご家族に説明しその後の対応について、主治医や代表者も含め説明し理解を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間の緊急対応についてのマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力を得ながら消防訓練を行なっている。 消火器や避難経路の確保などの点検も定期的に行っている。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で職員は私服で対応している。 声掛けについてその方の尊厳を失わないような声掛けを行うように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々かかわる中で本人が自分の思いが表わせるような声かけを行ったり、なにをするに対しても「する」「しない」の気持ちを尊重し無理強いをしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活を送ってもらっており、職員側の都合でそのペースを崩すことはしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人に選んでもらっているがその季節に合った身だしなみをしてもらえるように声掛けさせてもらうことがある。 自分で化粧される人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方に頂いた新鮮な野菜を使って料理を作ったり、食べる楽しみにつなげている。 その人に合った食事形態にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個別に確認、チェック表に記入している。 食事が進まない人に対しては、声掛けや介助だけでなく、形、形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い職員が見守り、できない方については介助を行っている。 訪問歯科診療を受け指導、ケアを受けている。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し声掛け、トイレ誘導を行っている。 個々の排泄パターンを職員が把握、情報交換できるようにする。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分摂取を行い、食事面の工夫もしながらできるだけ自然に排便できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を聞いて湯の温度を変えたり入浴剤を使用したりして雰囲気を変えながら入浴が楽しみになるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝に向けてリラックスできるように工夫をしている。 家族や医師と相談をして眠剤の調整をしている方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情報を整理している。 個別の薬ケースで薬を管理している。 必ず服薬確認の際には名前、日付の確認を一緒にし服薬確認したスタッフの名前を記入する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、調理、裁縫、買い物等の支援をしたり、本人の思いに沿った外出の計画を立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の付添、外出(買い物、図書館)の支援を行っている。 家族に協力してもらいながら外食、外出の機会を作ってもらっている。		

グループホーム養命荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として事業所として管理し、一緒に買い物に行くことがある。 出納帳をつけて家族に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや手紙のやり取りは自由にされ支援を行っている。 電話も要望があれば電話をかけることもある。 年賀状を大切な人に出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間の交流が盛んで玄関には季節の花を生けてもらったり、飾り物等をどこに飾るかを一緒に決めたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたりし、利用者同士が思い思いに落ち着いて過ごせ、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具、なじみのある思い出の品々を持ってきてもらい家庭的な雰囲気になるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内、居室内の整理整頓にこころがけ安全に生活できるように心がけている。		